

# 躍進

新琴似中学校  
学校だより

令和 8 年度  
4 月号 (第 1 号)  
令和 8 年 4 月 8 日

新年度のスタートにあたって

校長 岩淵 浩憲

令和8年度、新琴似中学校の新しい一年が始まります。保護者の皆様、地域の皆様、そして生徒の皆さん、進級おめでとうございます。

本校は今年、創立 80 周年という大きな節目を迎えます。この長い歴史の中で、数多くの先輩方がこの門をくぐり、それぞれの夢を抱いて社会へと羽ばたいていきました。この八十年という歳月は、地域の方々の温かい眼差しと、歴代の生徒・教職員の「信頼」の積み重ねそのものです。

さて、この「伝統」というものを考えるとき、私は一つの有名なパラドックスの話を思い浮かべます。哲学者たちが議論してきた「テセウスの船」というお話です。

古代ギリシャの英雄テセウスが使った船を保存するため、朽ちた木材を一つ一つ新しい板に替えていったとします。長い年月を経て、すべての部品が新しいものに入れ替わったとき、その船は果たして「もとのテセウスの船」と言えるのでしょうか。

学校も同じかもしれません。校舎は改築され、制服のデザインが変わり、何よりそこに集う生徒も教師も、数年経てば全員が入れ替わります。八十年前の開校当時と同じものは、物理的には何一つ残っていないかもしれません。しかし、新琴似中学校は、紛れもなく「新琴似中学校」であり続けています。

それはなぜでしょうか。目に見える「部品」が変わっても、そこに流れる「認め合い、高め合い」などの新琴似中の精神が受け継がれているからです。

自分とは異なる考えを持つ友を尊重し、認め合うこと。そして、互いに刺激を受けながら、より高い場所を目指して切磋琢磨すること。この目に見えない価値観こそが、本校を本校たらしめる「魂」であり、私たちが守り、磨き続けていくべき伝統なのです。

校長として、私が今年度、最も大切にしたいことがあります。それは、生徒一人一人が「自分は大切にされている」と心から実感できる学校づくりです。

テセウスの船の一枚一枚の板が重要であるように、新琴似中学校という大きな船を形作っているのは、他ならぬ生徒一人一人の存在です。「代わり」のきく生徒など一人もいません。自分の居場所があり、自分の声が届き、自分の挑戦を誰かが応援してくれる。そんな安心感の中でこそ、人は「高め合い」へと向かう勇気を持つことができます。

伝統とは、過去を振り返ることだけではありません。今ここにいる皆さんが、新しい板となり、新しい帆となって、新琴似中学校という船を未来へと進める原動力になることです。

八十年目の航海がいよいよ始まります。生徒の皆さんの笑顔が溢れ、一人ひとりが主役として輝ける一年になるよう、教職員一同、全力で伴走してまいります。保護者・地域の皆様におかれましては、変わらぬ御理解と御支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。